

令和 4 年度

「運営に関する計画(最終)」

大阪市立榎本幼稚園

令和 5 年 3 月

大阪市立榎本幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 明るく活発で素直な子どもが多いが、コロナ禍の影響もあり同年代の友達と関わる経験が少なく、初めてのことや難しいと思えることに対しては消極的な姿も見られる。幼稚園の自然環境や特色を活かした心弾ます経験や、教師や友達との協同する活動の中で人と関わる力や小学校以降の学びに繋がる力を育成したい。また、そのための教員の資質向上に努める。
- 自分の心身を大切にする気持ちがもてるよう、園児の実態に合わせて規則正しい生活習慣が身につくような保健指導を行い、幼児期から命の大切さに気付いて行動できるよう防災、安全教育について指導を重ね、家庭への啓発を行う。また絵本や物語に多く触れる経験を通して心豊かに育てていきたい。
- 区役所や地域・近隣校と連携し、地域の教育力が子どもたちに生かせるような取組を工夫し「地域に開かれた幼稚園」を目指していきたい。園の教育内容や取組についてホームページや掲示物等を活用して園外に広く発信していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、絵本を身近に親しんでいますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや保育ドキュメント・配布物などを通じて、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。

○保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○保護者アンケート調査で、「お子さまは、絵本を身近に親しんでいますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。

○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや保育ドキュメント・配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【年度目標について】

年度目標の達成においては、保護者アンケート調査で全ての項目において肯定的な回答が75%以上を超えており目標値を大きく上回っている。

【取組内容について】

本年度の幼稚園運営の全体を通して、次の成果が見られた。

安全教育・防災においては、年間計画に沿って計画的にねらいをもって避難訓練を行ったことで、落ち着いて参加し自分で自分の命を守ろうという意識が高まった。

保育の充実と教員の資質向上においては、教員が園内研究保育や研修会への参加・他園や他校を参観し保育や授業を参観する機会を通して、自身の保育力の向上に向けて課題意識をもって取り組むことができた。

また園内環境を生かし、季節や発達段階・保育のねらいに合わせて遊びの場を整えたことで、子どもが自ら環境を作り出したり、友達と一緒に再構成したりしながら継続し目標をもって活動していく姿が見られ協同性が育まれた。飼育栽培の活動を通して、自然の不思議さや命の大切さに気付く機会となり心の育ちにつながった。

異年齢交流については、新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めながら交流の経験を重ねることで意図的な活動に留まらず、日々の遊びの場での自然な異年齢交流が見られるようになり人に対する親しみの気持ちや関わる力が育まれた。

規則正しい生活習慣においては、新型コロナウイルス感染症予防の指導と並行し、毎月、時期やねらいにあつた保健指導を行い、その様子を保健だよりやホームページに掲載した。外部講師を招いての食育指導も幼児向け・保護者向けそれぞれに実施し、家庭と連携することで子どもたちに指導した内容が定着していった。

絵本や物語に親しむ環境や取り組みについては、絵本貸し出しを再開し親子で絵本に触れる機会を工夫したことで、子どもたちの興味・関心が高まった。

地域に開かれた幼稚園の教育内容の発信については、創立50周年事業をコロナ禍で実施方法を模索しながら考えを出し合い、子ども、保護者、事業委員・地域の方々、教職員で今年度でしか成しえない事業を実施できたことが成果として大きかった。

1年間の取り組みで、子どもの実態や目標に合わせて教育活動を充実させることができた。

今後も、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して教育内容を充実させ、安心・安全な環境の中で心豊かに力強く成長していくよう教職員が連携し、子どもたちの実態に即した教育活動に取り組んでいきたい。

大阪市立榎本幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>安全教育・防災に対する意識が高まるような指導を工夫する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの交通安全に対する意識が高まるよう指導内容を工夫し、年間計画を立て、「歩こうデー」を年10回以上実施する。 ・災害、地震、不審者対応、防犯等に備えた避難訓練を、年5回以上実施する。 ・園内の安全点検を毎日行い、園舎内外の環境点検を月1回行う。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標について】</p> <p>保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目に肯定的な回答をした保護者の割合は、97%であった。</p> <p>【取組内容について】</p> <p>① ① 年度当初に「歩こうデー」の年間計画を立て5月から月1回実施した。指導内容は、年間計画のねらいに沿って、親子で安全な歩き方や横断歩道の渡り方など交通ルールを知らせたり意識したりして、視覚物や教師のミニ劇などで具体的に分かりやすく指導を進めた。ストップ体操も子どもが歌って体を動かしながら安全を意識できるよう取り組んだ。降園指導についてはPTAの保健園外委員の方が当番表を作成し、保護者全員が順番で降園経路のポイントに立って、教師と共に指導していただけるように進めた。事後にはポイントに立った保護者が気付いたことを気付きメモに書いてホワイトボード掲示し、親子共に交通安全や交通ルールについて意識が高まるように取り組んだ。また、降園経路のポイントについては、今年度の利用経路を調べ、実態に合わせて変更し決定した。</p> <p>② 避難訓練は時期や発達に合わせて段階的に指導を実施してきた。教職員間で避難の方法や連携の取り方について共通理解した。4月は火災時の避難を年長児が実施し、その様子を年少児が見た。上靴のまま避難することやハンカチで口を押えることを確認した。5月は火災時の避難を全園児で実施した。年少児は、4月の指導を見ていたことで、慌てず落ち着いて参加することができた。6月は地震の際の避難方法について</p>

知らせ、防災頭巾の被り方や頭を守ることの大切さ、場合によっては小学校まで避難する時があることも確認した。また、「お・は・し・も」の「押さない」「走らない」「静かに」「戻らない」の避難の基本を視覚物を使って毎月振り返り、身に付くようにしてきた。7月は不審者対応を実施し、不審者が来た時の合い言葉や避難の方法を確認することができた。また、大阪府警と鶴見警察の方に来ていただいて防犯指導を受けた。子どもだけでなく保護者に向けての指導もあり、夏季休業に向けての防犯意識を高めることにつながった。9月は「大阪880万人訓練」と関連させ地震・津波の避難訓練を実施した。園庭に避難すると同時に津波の予報が出た時には小学校の校舎に避難することが必要なことも再度確認した。また保護者の引き取り訓練も同日に実施し、保護者も防災への意識が高まった。10月は火災の避難訓練を実施した。クラス活動の中、子どもたちはベルが鳴ると同時にさっと行動する姿があり、防災に対する意識が高まってできていることを感じた。また、消防署の消防点検時に消火器の位置確認、園内確認、消火訓練を実施し教職員も研修し防災意識を高めた。11月は地震の避難訓練を実施した。防災頭巾の被り方を再度知らせ素早く被れるようになり迅速な避難につながった。12月は不審者対応の避難訓練を実施した。教職員全員で実際に場面を想定して対応に当たったことで緊張感をもって取り組むことができた。1月は地震・津波の避難訓練を小学校と計画案を基に打ち合わせをして合同で実施した。小学校の校庭に避難したのち津波を想定して校舎3階まで小学生と一緒に避難した。緊迫した中で避難の実際を経験し、有意義な取り組みとなった。2月は火災の避難訓練を事前に知らせず実施した。突然の非常ベルにも放送をよく聞き自分の身を守り避難することができた。年間を通して想定を変えて計画的に避難訓練を実施することで、子どもが幼いながらも自分で自分の身を守ることを意識する姿が見られるようになった。

・毎日の安全点検に加え、更に詳しく園舎内外の点検ができるように点検内容を見直し、安全点検表を新たに作成した。新たな安全点検表に沿って園舎内外の安全点検を全教職員で月1回行った。教職員が複数で点検することでそれぞれの場やポイントについて新たな気付きがあり、安全面を再確認したり共有したりする機会となり安全に対する意識が高まった。

次年度への改善点

- ①
 - ・次年度1学期に警察による防犯指導の交通安全計画を実施できるよう検討し進める。
 - ・安全点検は不備が見つかったときすぐに改善できるようにしていく。
 - ・行事後の園内整理や片付けが計画的に進められるように教職員で声を掛け合い改善し進めていく。

大阪市立榎本幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p> <p>○保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用し、保育内容の充実と教員の保育力を向上する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践記録の検討会や園内研究保育を全教員で行う。 ・週1回以上、保育環境や幼児の姿について打ち合わせし共通理解を図る。 ・研究会や研修会に学期に1回以上参加し、教員の資質を高める。 ・近隣校と年3回以上、教員の校種間交流を行う。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>子どもの興味・関心を生かした保育環境や保育内容の工夫をする。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自園の特色を生かした環境の見直しを、週1回行う。 ・飼育栽培等の年間計画を立て、園庭や「えのもとの森」の畑を活用し、教材研究や指導の工夫を行う。 ・異年齢交流を月2回以上行い、交流を楽しめるような保育内容を工夫する。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>幼児の規則正しい生活習慣が身に付くよう、発達段階に応じた指導を実施する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防方法の指導を年3回以上実施し、定着できるようにする。 ・幼児や保護者への食育指導を年3回以上実施する。 ・けがの予防や安全指導を年3回以上実施する。 ・保健だよりやホームページを使って月1回以上、指導内容や幼児の変容を啓発する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目に肯定的な回答をした保護者の割合は、97%であった。

【取組内容について】

- ①
 - ・実践記録を全員が書くことで、各教員が違う視点から子どもの姿を読み取ることができ、幼児理解につながった。園内研究保育では、5、6月は担任が行い、環境構成や保育指導案作成など、学びにつながった。また、保育を見る際の視点を明確にするために要点を書き出すシートを作成して検討会を行ったことで、褒め合いに終わらない実りある検討会となった。6月は指導要請があり、先を見通してそれまでの保育がつながっていた。保育が変わるとともに子どもも主体的に活動するようになった。
 - ・保育後に職員室に集まり園児の姿や保育内容などを共有するよう心がけたが、1学期は週案の打ち合わせが担任間のみになり、その日の活動共有までできなかつた。日々の保育の流れや、行事に向けての取り組みを職朝や保育後に共有する時間をもつことで全職員で共通理解し、保育環境を整える時間を設けたり進捗状況を確認し合ったりしながら進めていった。
 - ・研究会や研修会は、ブロックの研究に限らず11月と2月に研究部会があり各教員が課題意識をもって研修に参加することができた。また、9月と10月は教員が交代で研究部会に参加しクラスの保育に返していく、頑張る先生支援研究発表や特別支援研修にも参加し、参加していない教員へ伝達したりしていくことで、学びを共有することができた。
 - ・校種間交流では、教育実習担当の先生や榎本小学校の副校長先生が来てくださり、日々の保育や園内研究保育、指導要請に参加いただくことができた。療育の方も定期的に来ていただけるようになり、子どもの姿や手立てなどを共有する機会となった。また6月に榎本小学校の研究授業を参観した。10月に榎本小学校の運動会の練習を見に行く機会を設けたことで、運動会の取り組みの姿が子どもへの刺激になった。小学校の作品を見に行く機会を設け子どもも展覧会の刺激となり、12月にたこあげ、2月に図書室の利用、年長児のみ小学校の授業見学をした。生活発表会の予行や誕生会を中心教員研修の小学校の先生が見に来られ子どもも同士だけではない交流や刺激となつた。
- ②
 - ・子どもの実態を把握し、季節や興味・関心に応じて環境を整え、保育の振り返りや就学前教育カリキュラムを参考に環境の再構成をしている。1学期は、保育室から園庭が見える環境、園庭や「えのもとの森」など自然が豊かという特色や小学校と隣接している環境を生かし、虫探しや観察遊び、季節の草花や果物を遊びに取り入れた色水遊びやごちそう作り、泡遊び、砂場での泥んこ遊び、園庭全体を活用した電車ごっこなど、コロナ禍ではあるがいろいろな経験が園内でできるように取り組み、楽しめるように進めてきた。
 - 2学期は、園庭を広く活用し伸び伸び運動できる環境づくりに向けて再構成した。簡易テントで日陰をつくり、学年の実態に合わせて遊具や用具を精査した。創立50周年のお祝いをイメージした活動を子どもたちと一緒に考え、保育内容や運動会の演

技につなげた。年少児は身近な生き物や自然物を取り入れ楽しんで活動することができた。年長児は継続して友達と挑戦する環境の中で友達と認め合い、力や気持ちを合わせて取り組む充実感を味わった。

3学期は寒い中でも主体的に体を動かせるように遊具を整理し、園庭を広く使えるようにした。体操や駆け足を継続して取り組み、縄遊びや竹馬、一輪車、ボール遊び、羽根つき、鬼ごっこなどいろいろな運動遊びに取り組みやすいように環境を工夫した。自分なりの目標をもって根気よく取り組んだり友達と考えを出し合ってルールを決めて遊んだりする姿につながった。また、劇遊びに取り組みやすいように、大道具や小道具・衣装などを子どもたちの発想や思いを受け止め共有しながら活動を進め、表現する楽しさを存分に味わった。楽器遊びでは様々な楽器に触れ友達と一緒に音色を合わせられるように、いつでも鳴らせる場を準備したり曲を用意したりした。友達と楽器を試したり音色やリズムを合わせたりする楽しさを味わうことができた。教職員間ではほぼ毎日降園後に子どもの様子や今後の保育展開・環境について話をし、それを基に環境の再構成を行った。そのことが、友達との関わりを深め、思いや考えを伝え合い、協同性を育むことにつながった。

- ・飼育栽培等の年間計画を立て、計画に沿って進めてきた。園庭や花壇の活用、親子栽培に向けては土作りから取り組み、身の回りの生き物や植物に対して親しみや愛着をもち、継続して観察したり育てたりする面白さや不思議さの発見につながり、様々な野菜や木の実の収穫（スナップエンドウ・サクランボ・ビワ・エダマメ・ブドウ・カキなど）も楽しみ、家庭に持ち帰った。季節の変化とともに保育と連動した取り組みとなった。

また、鶴見区種花事業への参加にもつながった。「えのもとの森」では年長児がジャガイモの種芋を植え、水やりや雑草抜きなどの世話をする中で土の中のジャガイモの様子に興味をもって図鑑や絵本で調べたり、花が咲いたことに気付いたりと、喜びを共有した。収穫時にはジャガイモを並べたり数を数えたり大きさ比べをしたり「～にして食べたい」と伝え合ったりして楽しんだ。「えのもとの森」も定期的に散策に出かけている。「えのもとの森」に大根を植え育てたり木々の実りに気付いたり自然物を収穫したり季節の移り変わりを感じた。

身近な自然と触れ合う中でダンゴムシ探しやアオムシの飼育などに興味関心をもつようになつた。子どもが見やすいよう保育室前の廊下で育てたことから、ダンゴムシの動きや生活、アオムシの成長に気付き、親しみをもち、クラスで共有しながら遊びを広げ深めることとなり、ごっこ遊びや絵画製作、ダンスなどいろいろな表現活動につながつた。また、小さな生き物の命にも気付く機会となつた。

2学期に向けて1学期の栽培計画を見直した。9月以降に種取りができるように栽培時期をずらしたりポットで発芽させ移植したりしてタイミングを逃さず保育に生かせるように進めた。10月には冬野菜の親子栽培に取り組み、追肥の仕方や世話の仕方を具体的に降園時に知らせ親子で栽培する意識を高めることにつながつた。また、花壇や米袋で育てたサツマイモを収穫した。収穫時には芋の形や数、ツルや土の中の様子に興味・関心をもち、収穫を楽しみながら様々な気付きや発見をする姿が見られた。ツルで綱引きや縄跳びをしたりリースを作ったりと遊びに生かすことができた。3学期には継続して育ててきた冬野菜を親子で収穫し、「えのもとの森」の畑で育てていた大根を抜いた。更に身近な自然に親しみ自然の変化や不思議さ面白さ、生長や収穫の喜びを存分に味わうことができた。

- ・年少児・年長児2クラスの小規模園である良さを生かし、互いが刺激し合える関係を築きたいと考え、年度当初から継続して一緒に体操をしたり遊んだりする場や環境を整

えてきた。その中で年長児が見本になつたり優しく関わったりし、年少児はその姿に憧れたり遊びを教えてもらつたりと互いに親しみをもつ姿が見られた。遊びの中でも「入れて」「いいよ」と互いを受け入れて遊ぶ様子が多く見られるようになった。また、1年を通して関わる異年齢交流ペアを決め、互いのことがより分かり合える関係性や友達との関わりのきっかけづくりにつながった。「えのもとの森」への散歩や近隣の公園への園外保育では年長児が寄り添いリードする姿があり、年少児は年長児に信頼を寄せる様子が見られた。夏祭りごっこでは異年齢のペアでお店屋さんやお客さんになっていろいろな遊びに取り組む機会をもつことができた。その中で互いのペアを気にかけ、一緒に遊びを楽しもうとする様子が見られた。2学期は、創立50周年お祝いケーキの土台を教師が作成し、お祝いの気持ちを共有しながら運動会で年少・年長児が互いの演技に活用し交流していくことができた。年長児が運動会の取り組みの中で縄跳び、パラバルーン、リレーに挑戦し頑張る姿に年少児は憧れの気持ちをもち、見たり真似たりした。そのことが運動会後、一緒に遊んだり活動を進めたりする姿につながった。互いの姿が刺激となり年少児は憧れをもち、年長児は遊びをリードしたり年長児としての自覚や自信につながったりした。また、「チューリップクラブ」・「ふれあい仲良しデー」を通じて未就園児とふれあい機会を定期的にもつようになってきた。未就園児に寄り添つたり遊びに誘いかけたりして年少・年長児が優しく関わる姿が見られた。さらに3学期には生活発表会の様子を年長・年少児で見合つたり未就園児にも見せたりすることができた。榎本小学校の図書室を利用させていただいたり、年長児は1・2年生の授業見学をさせていただいたりと小学校との交流も実施することができた。年長児は小学生への憧れや就学に向けて期待が膨らんだ。

【年度目標について】

保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いていたと思いますか」の項目に肯定的な回答をした保護者の割合は、97%であった。

【取組内容について】

- ③
 - ・4月に感染予防対策について、全園児に手洗いうがい・正しいマスクの着用の仕方を伝えた。年少児が使用する手洗い場の天井にキャラクターの視覚物を吊るすことによってがらがらうがいが身に付き、「あわあわてあらいのうた」の音楽に合わせて手洗いすることによって楽しみながらする姿が見られた。年長児は、年少時に伝えたことを再確認し、ばい菌スタンプを使って正しい手洗いができているか確認した。
 - ・今年度は、感染予防をしながら少人数で歯みがきを実施している。教師が歯の模型と歯ブラシを使い、「みがきのみかた」の音楽を使い正しい歯のみがき方を伝えた。個別指導をすることによって上手に磨けるようになり、保護者からは家庭でも上手に磨けるようになったという声があった。2学期からは年長児のみ、磨き方が細かくなる「イ～ハ～」の音楽に変更した。始めは1人1人個別指導を行っていたが、次第に子ども自ら歯みがきをする姿が見られた。12月に正しい歯みがきができるか、感染予防対策をしながら、歯垢染め出し液を使って一斉に歯みがきを行った。その結果、磨き方に個人差があると理解し、子どもも1人1つずつ鏡を使用していたため、自分がしっかりと歯みがきができているか理解する姿が見られた。
 - ・1月に花王の歯みがき教室をクラスごとに実施した。パワーポイントを使って歯についてや歯みがき時の約束を子どもたちとし、一番むし歯になりやすい奥歯と前歯の歯みがきを人形と一緒に練習した。

- ・近隣の小中学校の栄養教諭と連携を取り、6月に保護者向けに食育講演会を行った。朝ごはんや野菜について話をしてくださり、2月には年長児向けに小学校の給食について話をしていただいた。パンや果物の食べ方から、給食にはどんな食べ物が入っているか、ワークシートを使うことで子どもたちは理解している姿が見られた。教師からは、正しい箸の持ち方や食べ物の味覚、幼稚園で育てた野菜から三大栄養素について話をした。
- ・9月、10月にけがの防止について話をした。過去のけがの振り返りをしながら、けがの種類を伝えたり、実際に園生活の様子を撮った動画を見せることによって、けがの防止に対する意識が高まった。
- ・保健指導や歯みがきの様子を保健だよりやホームページに掲載し、保護者啓発をした。
- ・長期休業期間中も指導内容が継続して定着できるよう、歯みがきカレンダーと朝ごはん早寝早起き・手洗いうがいカレンダーを配布した。

次年度への改善点

- ①
 - ・打合せについては、職員体制を考慮し、保育環境や幼児理解など共通理解できるように、引き続き保育後や職朝を活用していく。
 - ・参加した研究会・研修会の学びが共有できるよう、引き続き交代で参加したり回覧や職朝などで伝達をする。
 - ・授業見学は1学期のうちに行き、修了児がどのような姿になっているか知ることで教員の資質向上につなげていく。
- ②
 - ・遊具用具の収納の仕方、片付けの場や方法を教職員間で共通理解し、整えていくようする。
 - ・園の行事を通して互いのクラスの取り組みを見合う機会を更に増やしていく。
 - ・チューリップクラブや未就園児、小学校との関わりの機会を工夫し増やしていくようする。
- ③
 - ・月1回の保健指導だけではなく、継続して定着できるよう、発育測定後にミニ保健指導を取り入れる。
 - ・保健指導後は教材等を降園時に展示したり、指導中の子どもの様子をポスターとして作成したりして、保護者啓発をする。

大阪市立榎本幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】	
学校の年度目標 ○保護者アンケート調査で、「お子さまは、入園・進級当初より絵本や物語に親しみの気持ちをもっていますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	A
○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや保育ドキュメント・配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目に肯定的な回答を75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】 子どもが絵本や物語に興味・関心をもてるような環境や取組を工夫する。 指標 ・週1回、絵本貸し出しを行い、貸出カードをつくって家庭との連携を進める。 ・年3回以上、親子で絵本に親しむことができるような機会を設ける。 ・年3回以上、関係機関との連携を行い、様々な絵本に親しむ機会を設ける。 ・年6回以上、新刊図書や季節に合った絵本を置く場を用意し、幼児が絵本に親しみやすい環境を整える。	A
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域に開かれた幼稚園として、保育内容や取組・子どもの育ちなどを、広く発信する。 指標 ・週1回以上、幼稚園の教育活動をホームページに更新する。 ・年5回以上、就学前教育カリキュラムを取り入れた保育内容を保護者に伝える機会をもつ。 ・年2回以上地域や区役所等の関係機関と連携を図り、50周年式典に向けて地域の方々と連携し、幼稚園のことを深く知り園全体で祝う気持ちがもてるよう取組を工夫する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

保護者アンケート調査で、「お子さまは、入園・進級当初より絵本や物語に親しみの気持ちをもっていますか」の項目に肯定的な回答をした保護者の割合は、97%であった。

【取組内容について】

- ①
 - ・絵本室の整備や、絵本の修理・整理整頓をし、環境を見直した。絵本棚を購入し、新刊図書や季節に合った本などを毎月選定し、手に取りやすいようにしたことで、子どもたちが様々な絵本に親しむ機会が増えた。また、絵本を寄贈していただく事業に応募し、大阪市教育会館より11月に22冊の新刊図書を寄贈していただいた。「新しい絵本」として紹介すると、絵本貸し出しで寄贈絵本を選ぶ幼児がいたり、教師がクラスで読み聞かせをしたりして、新しい絵本にも親しむようになった。
 - ・絵本カードを作成し、週に1度絵本の貸し出しをしている。毎週絵本を借りることを楽しみにしている子どもが多く見られ、進んで絵本に親しむ機会が以前に比べて増えた。
 - ・子どもが借りるだけでなく、保護者が好きな絵本を選び、借りる日を設けた。普段子どもが選ばないような絵本に親しむ機会となったり、家でのコミュニケーションの一つになったりしているなどの声が多くあった。
 - ・7月には、各クラスで保護者に絵本の読み聞かせをしていただく「ちいさなおはなしの会」を計画、実施した。「次は誰のお家の人が読んでくれるのかな?」と次回を楽しみにする姿が多く見られた。また、教師や自分の保護者以外の人の話を聞くことで、集中して聞いたり、初めての絵本を楽しんだりと、様々な姿が見られた。3月にも6~7名の保護者がご参加くださり、子どもたちが楽しみに絵本に親しむ姿が見られた。9月には、親子で好きな絵本を選び保護者の膝の上に座って絵本の読み聞かせをする「ふれあいおはなしタイム」を計画、実施した。1冊だけではなく、数冊程度一緒に見る時間を確保することで、親子2人の時間をゆったりと過ごしていた。このような機会を設けたことで、子どもが興味をもつ絵本が変わったり、好きな絵本が増えたりしているという声が多くあった。3月にも実施した。
 - ・中央図書館から絵本を貸していただき、各クラスで活用した。幼稚園とは違う新しい絵本に親しむ機会になったり、絵本をより大切にしようとしたりする姿につながった。
 - ・12月には大阪府オーサービジット事業から絵本作家の方に来園してもらい、読み聞かせをしていただいた。絵本作家さんから直接の読み聞かせをしていただくことで、より絵本の世界に入り込んで楽しんだ。子どもからの質問やリクエストに応えていただき、絵本や絵本作家さんへの親しみや憧れの気持ちをもつことにもつながった。
 - ・7月と2月に「絵本の会鶴見」に来ていただき、学年毎に絵本やパネルシアターなどを見せていただいた。読んだことがある絵本でも、大型絵本になったりリズムや歌を口ずさみながら聞かせていただいたりして、新鮮な気持ちでお話を楽しんだ。
 - ・榎本小学校の図書館を使用させていただいた。幼稚園の絵本室よりも大きな図書室に本や図鑑などがたくさん置いてあり、様々な本の中から興味のある本を探すことの喜びを感じた。

【年度目標について】

保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや保育ドキュメント・配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目に肯定的な回答をした保護者の割合は、97%であった。

【取組内容について】

- ② • ほぼ毎日、幼稚園の取り組みや保育内容をホームページに更新することで、在園児の保護者だけでなく、地域の方々や入園を考えている方々にも見ていただくことができた。保育内容や園の取り組みを広く発信することにつながっている。また再開した園庭開放についてもホームページを見ての参加の問い合わせが増えた。
• 每月月末に、幼稚園での取り組みや子どもの姿を写真で知らせる保育ドキュメントを掲示した。日々の保育の様子や教師の思いについて就学前教育カリキュラムを取り入れながら知らせることで、園生活や遊びを通して育つ子どもの成長を感じることができ、保護者にとっても良い機会となっている。また、保育ドキュメントの作成にあたり、担任が1か月の保育を振り返る機会となり、改めて保育についてや子どもの姿について考えることにつながった。

また2学期の終業式にはパワーポイントを作成し、各クラスの保育内容をピックアップして就学前教育カリキュラムの知・徳・体を照らし合わせ保護者啓発した。具体的な活動を挙げて知らせたことで子どもの育ちを実感していただく機会になった。

- 区役所との連携では鶴見区種花事業に参加し、花の苗をいただいて子どもたちと一緒に植えた。たくさんの花に触れ、喜んだり花の色や形に興味をもったりと、花の世話をしながら自然に触れる機会が増えた。9月に「鶴見区住みます芸人」が来園し、子どもにSDGsについて紙芝居やクイズを用いて知らせる取り組みにも参加した。分かりやすく身近な環境問題について関心を寄せる機会になった。

今後は創立50周年事業の一つとして、花博30周年記念植樹事業に参加し3月14日植樹式を行うことになっている。鶴見区に一つの公立幼稚園としての地域の子育ての拠点となれるよう努めていきたい。

- 50周年記念事業の取り組みの中では、7月にはホワイトパネルに絵を描き、道路沿いに掲示した。園内だけでなく地域の方にも見ていただくことができ、子どもたちと50周年記念の年を祝う気持ちが高まるような取り組みであった。夏休み前から在園児や卒園児の保護者に協力を呼びかけ牛乳パックを収集し、教職員で大きなケーキの土台を作成し、9月、子どもに幼稚園の50歳の誕生会について知らせた。10月15日の創立50周年記念運動会では、オープニングに園児のメッセージを付けたバルーンリリース（風船飛ばし）を行い、大きなケーキを幼稚園の誕生日ケーキとして年少・年長の演技に物語の中でつなげ活用した。バルーンリリースで飛ばした風船を見た方からお手紙が届き子どもたちも大変喜んだ。

また10月末には歴代PTA会長の方が、畳の成り立ちをお話ししてくださった後、畳コースター作りを行った。子どもたちも大変興味をもってお話を聞いていた。畳コースターは「お祝い会」当日に展示し、参観の方も関心をもってみておられた。

11月の子ども展覧会と同日に実施した「創立50周年記念お祝い会」では、子どもたちが考えたお祝いの歌や演技、言葉を保護者の方に見ていただいたり、ビデオ撮影をし

て録画したものを事業実行委員の方に見ていただくことができた。様々な周年事業における取組によって自分たちが過ごす地域や榎本幼稚園の良さに気付き創立50周年を祝う気持ちが子どもたちの中に育った。

- ・今年度は5月・7月・9月・10月・11月に創立50周年事業実行委員会を実施し、周年事業に向けて本園のOB会員の方、現役PTA役員、教職員が集まり、コロナ禍での取り組みを共に模索し実施方法を検討してきた。

コロナ禍でこの2～3年の間、OB会の実施や式関係への来賓の方の来園が難しい状況の中で、互いに顔を合わせることがほとんどなかったが、実行委員会の中で親しさが増し、「お祝い会」当日には50周年のロゴをモチーフとした揃いのTシャツを着て事業委員と教職員は参加することができた。

今後も地域に立つ公立幼稚園として、今後も大切な子どもたちの育ちを支えるとともに、人と人をつなぐ開かれた幼稚園でありたいと考えている。

次年度への改善点

- ①
 - ・絵本室の環境を再度見直し子どもがより絵本を手に取りやすいようにしたり、絵本室内でゆったりと絵本を見たりできるよう工夫する。
 - ・新刊図書、図鑑を購入し、今ある絵本の見直しや修理を行う。
 - ・地域や学校と連携し、絵本の読み聞かせボランティアや人形劇等に来てもらったり図書館に園外保育に行くなどして絵本や物語を楽しむ機会を増やす。
- ②
 - ・全教職員が、積極的にホームページを更新することで、より幼稚園の取り組みや子どもの姿を広く発信する。
 - ・次年度も時期を逃さず保育ドキュメントを作成掲示する。
 - ・区役所や地域との交流を進め、子どもたちの人とかかわる力や多様な経験に繋げたい。